

英国政府、大気汚染対策で二酸化窒素 (NO2) 削減策についての協議会を開始

英国の環境・食糧・農村地域省 (Department for Environment Food & Rural Affairs 略称 - DEFRA) は、二酸化窒素 (NO2) を削減し大気汚染を改善するにはどのような地域活動が必要なのか、本年10月より地方の住民や輸送に係る会社や自治体のメンバーからのアイデアを聞き取る協議会 (Consultation) を実施すると発表しました。

協議会では、いかにして英国の都市や町の大気汚染を減らし、市街地や住宅街での二酸化窒素 (NO2) を削減しクリーンな大気を維持するかについての関係先の意見や提案を取りまとめるべく政府との住民会合であります。これは2025年までにロンドンをはじめ主要都市での NO2排出の制限を遵守する国家フレームワークの一環として発表されたものです。



ロンドンの交通渋滞と丘陵地に広がる田園風景イメージ (Web より)

英国の大気環境は今でも「とてもきれいな空気だ！」とは言える状況ではありません。例えば、2010年以降の主要道路沿いの NO2排出量は、今日では15% 減少していますが、相変わらず都市圏では有害な物質による大気汚染は続いています。大気汚染削減の全国レベルでの対策が必要ですが特に、ロンドン、バーミンガム、リーズ、ノッティンガム、サザンプトン、ダービー等の都市圏では、更なる「きれいな空気」の目標を達成するため今回の協議会は、既存の緑地帯を守りながらいかにきれいな空気環境で住民がその地域に住みたくなり、そして働き甲斐のあるコミュニティを構築することが必要で、これから予想される英国の人口増と経済成長を側面から支え、そして英国が環境技術で世界をリードする国になる狙いもあります。

協議会は、特定の環境問題に直面していた自治体がきれいな空気環境エリアを取り戻すにあたりどのような行動を実際に行ったか、そのプロセスを明らかにし、他の自治体に認知させることも、協議会の意義でもあります。

これまでに地方自治体が実施してきた大気汚染削減施策には、以下の様な施策があり、一部が既に実行されています。

- ・電気自動車（EV）の充電ステーションネットワークの拡大
- ・低公害型バスやタクシーの導入（EV や PHV、FCV）
- ・自転車専用道路の拡充
- ・パークアンドライド（車の利用者が市街地に入る直前の公共駐車場に駐車し、バスで市街地に入場する方法やロンドンの様な大都市周辺の郊外駅では、駅に無料の駐車場を設置し、鉄道利用の促進をはかる）

これらは、いずれも既に確立された技術であり施策であるので、それほど難しい問題であるとは思えません。要は、政府がいかに自治体を鼓舞しその気にさせるかであります。

一方首都ロンドンでは、ボリス・ジョンソン市長が「世界一空気のきれいな環境先進メガ都市」を目指し、様々な大気汚染削減策を果敢に進めています。ロンドンの環境施策の最新情報については、改めて報告したいと思います。（了）